

●障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278
 ●グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557

管理者 松原 正子

●発行／社会福祉法人ポム・ド・パン
 ●発行日／2017年5月31日

「世界自閉症啓発デー/発達障害啓発週間」

(毎年4月2日)

(毎年4月2日～8日)

「世界自閉症啓発デーとは」

平成19年12月18日の国連総会で、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。

日本でも、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っています。



啓発パレード



高松市役所の懸垂幕



県内各所のブルーライトアップ

- ・瀬戸大橋記念館
- ・高松シンボルタワー
- ・四国学院大学(チャペル)
- ・旧金毘羅大芝居「金丸座」

高松市役所前にて



啓発グッズの配布 ゆめタウン、イオンモール高松



世界自閉症啓発パレードに参加しました。利用者が一生懸命、のぼりや横断幕を持って県庁から高松商店街を行進できていたのが印象的でした。
 ウィンドヒルもポスターの掲示やパレードの誘導、啓発グッズの配布等、職員間で協力しながら、啓発活動を行いました。
 これからも、少しでも自閉症をはじめとする発達障害について知っていただけるように、取り組んでいきたいと思います。

生活支援員 村川 文生

啓発デー

世界自閉症啓発デー
日本実行委員会公式サイト

<http://www.worldautismawarenessday.jp/>



グループホーム風見の家のようす

花見



公共交通機関を利用して、栗林公園に行きました。
公園内のカフェで昼食を摂りました。

こづかい帳



自分たちの小遣いで買い物をした後、記入、計算の仕方、残金が合っているか、毎回確認しています。

地域清掃



毎週金曜日の夕方、継続しています。
クリーンウォーキングは健康と美化を兼ねています。

余暇



リビングや居室で、各々自分の時間を
有効に使ってています。



料理



毎朝、夕、職員、世話人と一緒に作っています。調理、盛り付け、片付けまで、できることは自分たちで行っています。

平成24年4月1日開所、6年目を迎えました。日々職員・世話人のサポートを受けながら自立に向けた生活を目指しています。彼らの生活の様子を振り返ってみると、個々の意思決定を尊重しながら、集団という「輪」を保っていくために、全員でやる事、当番制で分担してやる事など目に見えるルールを決めている一方で、自発的に助け合う仲間意識が自然と増えてきているように思います。一日の生活は概ね日課表に沿って進んでいます。仕事を終え、夕食・入浴を済ませると余暇は自分たちの時間です。時に余暇時間を利用し小遣い帳の記入、課題学習にも取り組んでいます。書く事、習う事など、学校を卒業すると学ぶ機会が減るので生活に必要な事は、何等かの場面を設定し継続しています。お金の管理まではいかずとも、自分たちが食べた物、買った物がいくら位かかっているかの意識付けにもなっていると思います。少し時間がかかる暗算で足し算、引き算をして小遣い帳を完成しています。「継続は力なり」目に見える成長は少なくとも、利用者は確実に成長しています。調理の様子も振り返ってみると、勢いよく一気に塩コショウを振っていた方も加減ができるようになり、食材は半分と伝えたり、切り方の見本を見ながら同じように切ったり、自分の誕生日が近くなると献立の相談もあります。誕生日会メニューは、食べたい物だけでなく必要な材料まで決めてもらっています。最後に必ず「ケーキ」と伝えられます。週に一度の地域清掃も規模は小さいですが、自分たちが住んでいる地域のお役にたてる事の一つとして継続して行っています。今後も風見の家では、自発的に活躍できる場面を増やし、年老いて、親亡き後の生活に至るまでに、本当の意味で安心できる生活の組み立てを、一緒に考えていきたいと思います。(平成26年4月 障害者総合支援法の施工後、ケアホームとグループホームの一元化を受け、ケアホーム風見の家は「グループホーム風見の家」と名称が変わりました)

主任生活支援員 和田 真由美

ウインドヒルの主な行事

1/5木・6金
13金

初 詣

晴天に恵まれ、今回で2回目の屋島大宮八幡宮へ初詣に行きました。お賽銭を上げた後、積極的に鈴を鳴らす利用者が多くいました。神殿に入る際、靴を揃えたり、周りの動きに合わせて頭を下げることができ、利用者の成長を改めて感じました。

参拝後、保護者と一緒に遍路道を散策し、保護者との楽しい時間を過ごしリフレッシュができました。

生活支援員 松田 仁美



2/21
火

みんなで日山登山

絶好の山登り日和となり、みんな元気に頂上を目指しました。ペースの速いグループ、ゆっくりのグループに分かれてスタートしましたが、大きく離れることなく登りました。

途中、地域の方とすれ違い、職員主導ではありませんでしたが挨拶を交わしたり、道を譲り合ったりのふれあいがあり、それはとても気持ちが良いものでした。みんな登頂し、2月ではありましたがさわやかな汗を額に浮かべていました。

生活支援員 松原 美恵



3/22
水

水仙ロード

今年も行つきました「水仙ロード(綾川町)」。毎年小野川先生とリフレッシュクラブメンバーの方々に同行してもらっています。毎回色々な事を教えてもらい、一緒に歌や踊りの楽しい時間も過ごしています。天気も良く清々しい日和でしたが、残念ながら水仙も、しだれ桜にも未だ春が訪れていませんでした。「来年もよろしくお願いします」「来年は咲いているといいね」と言葉を交わしながらお別れしました。いつの日からか、水仙ロードが年度末の行事となり、新年度を迎える常日頃利用者の生活を応援してくれている多くの方々に、一年間の感謝の気持ちを伝えます。

主任生活支援員 和田 真由美



2/17
金

施設交流ボウリング大会

香川県知的障害者福祉協会主催の施設交流ボウリング大会が丸亀スター・ボウルで開催され、6名の利用者が参加しました。マイボール、マイシューズを揃えて日頃から練習に励んでいる利用者もあり、上位入賞に期待がかかります。ゴロゴロとレーンを転がるボール、カランカランとピンが飛び跳ね、その後には大きな声と拍手の音が会場中に響き渡ります。その結果、団体戦では2位と3位、個人戦では5位という好成績を残すことが出来ました。

やれば出来るを実感すると共に楽しい時間を過ごすことが出来ました。「継続は力なり」コツコツと積み上げてきたことが、この結果につながったと思います。

生活支援員
安倍 晶子



3/7
火

ひなまつりお茶会

今回で5回目となるひなまつりお茶会を開催しました。

雛壇を飾って、地元婦人会のお茶の先生にお越しいただき、お手前を披露していただきました。

お琴のBGMで普段とは違う雰囲気を察してか、利用者もいつもよりピンとした面持ちで参加していました。お茶の作法は見よう見まねでも、ゆっくり味わっている姿が印象的でした。

生活支援員 鍋谷 明子



花 見

公園でお花見に行きました。

多くの花見客がいた中、グループごとにまとまって行動でき、現地ですれ違う人と挨拶をかわし、満開の桜を楽しみました。様々な行事を経験することで、利用者もその行事に応じた行動がとれるようになり、社会的なマナーも向上し、成長を感じています。

生活支援員 鎌田 泰明



毎月の定期レクリエーション 水墨画

平成25年から約3年間にわたって稻井美智子先生に教わってきたことを職員が引き継ぎ、月2回、水墨画教室を行っています。

利用者は自分で使う道具の用意ができると、まずは墨を磨ることから始めます。絵皿に濃墨と薄墨ができたら準備完了。お手本を基に下書きをします。季節の花や野菜、風景を題材に自然を理解する力や豊かな心を育みながら、墨の濃淡をしっかりと表現出来るよう職員が補助をして行っています。姿勢を正して真っ白な画仙紙に向かうと、皆、息をこらして筆先を見つめています。静かな時間がゆっくり流れるひと時です。作品は施設内に展示しています。毎年行われる「地域とのつどい」でも展示しておりますので、ぜひご覧ください。

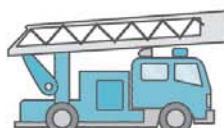
生活支援員 白井麻美・谷本展恵



消防立ち会い 避難訓練

毎月、様々な想定で避難訓練を実施している成果もあり、職員の誘導時の連携や声かけ、利用者の避難時の動きもスムーズに行えたことに対してよい評価を頂きました。今回の避難訓練では、高松南署消防署員の方に各ユニット、居室のカーテンの防炎表示や施設内避難通路確保等の事前確認後、消防署員立ち会いのもと、避難訓練を実施するという流れでした。

利用者の方は避難アラームの大きな音に驚く事なく、落ち着いて職員の避難指示に従って、避難する事が出来ました。消防署員の方からも好評を頂き、改めて経験の積み重ねの大切さを感じた一幕でした。



生活支援員 吉本 唯人

地域とのつながり

三渓小学校 清掃ボランティア&感謝のつどい



平成25年の1月から毎月、地元の三渓小学校の大掃除の日に合わせて清掃ボランティア活動をしています。利用者と一緒に掃除に取り組んでいると、先生や生徒の皆さんから「いつもありがとうございます」と声をかけてください、とても温かい気持ちになります。

2月22日に三渓小学校で行われた「感謝のつどい」の会に招待され、素敵なプレゼントをいただきました。

これからもこのような活動を通じて、地域とのつながりを大切にしていきたいと思います。今後ともよろしくおねがい致します。主任生活支援員 竹内 優介

みたに駅伝 ボランティア

三谷 みどりの花の会



2月12日に開催された「第10回みたに駅伝」に参加。安全警護スタッフとしてボランティアで応援させていただきました。

冷たい風が吹く中、汗を流して一生懸命走る子供たちの安全を確認しながら、熱い声援を送ってきました。

栄養士 新名亜希子



地元コミュニティ「三谷みどりの花の会」様より水仙のお花をいただきました。黄色の綺麗なお花でとても良い香りがしています。施設の玄関がとても華やかになりました、来訪者に喜ばれました。

大切に育てさせていただきます。
ありがとうございました。

事務員 松原 健太



～暖かなお気持ち～

後援会より



各ユニット、作業棟、
交流棟に計8台
いただきました。

三谷みどりの花の会様より



地域歳末たれあい募金特別助成事業様より



作業棟にブライントをいただきました。

ご寄付をいただきました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

職員研修

・虐待防止研修 生活支援員 村川 文生

1月17日虐待防止研修を実施しました。

高松市障害福祉課の鶴見氏を講師としてお招きし、平成28年4月1日からスタートしている「障害者差別解消法」を中心とした内容について研修していただきました。

「障害を理由とする差別」をなくし、すべての人が障害のあるなしにかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し合いながら、共生できる社会を作るための法律です。

会議で話し合い、共通理解を深め、支援の質の向上を目指し、虐待防止に繋げていきたいと感じました。



・嘔吐処理 主任看護師 金川 恵子

秋から冬にかけて流行する感染性胃腸炎(大人ではノロウイルスが原因の事が多い)による嘔吐ですが、吐物の処理の仕方を間違えば大きく感染が広がることになります。毎年この時期に職員を対象に嘔吐物の処理の仕方を実習し、再確認するようにしています。今年は1/6(金)1/20(金)に実施しました。写真入りの手順も作成し、より分かりやすい内容となりました。



・出前スポーツ教室 生活支援員 村川 文生

平成29年3月2日、かがわ総合リハビリテーション福祉センターより、体育指導員の方にお越し頂き、出前スポーツ教室を実施しました。バトミントンネットを利用して風船バレーボールを使用した運動、ストレッチや筋トレなどについてご指導いただきました。職員とペアでキャッチボールから始め、慣れてくると5~6名のグループに拡がり笑顔で参加出来ました。今回ご指導いただいた事を、ウインドヒルのレクリエーションにも取り入れて、充実した活動になるよう活かしていきたいと思います。



・第28回こうさい療育セミナー 副管理者 鈴木 克幸

公益財団法人鉄道弘済会 総合福祉センター 弘済学園(神奈川県秦野市)で行われた第28回こうさい療育セミナーに参加しました。弘済学園は、開設35周年を記念して平成元年より「こうさい療育セミナー」を開催し、今回のセミナーで28回目を迎えた歴史ある施設です。

支援の積み重ねから生まれた有効な取り組みとして、音楽と体操を取り入れたプログラムは共感できた内容もあり、ウインドヒルでも取り入れていきたいと思いました。

また、質疑応答では具体的な情報交換ができ、有意義な時間となりました。

社会福祉法人ポム・ド・パンの理念のもと、ウインドヒルの支援者として、先輩施設から学んだことを現場に還元していきます。

・人材育成 主任栄養士 堀 仁美

人材育成委員のスタッフとして参加させていただきました。法制度のお話しということで、聞きなれない言葉が多く全体的に難しかった、というのが正直な感想です。日々利用者に対して直に向き合い、よりよい支援・サービスを提供することももちろん大切なことですが、利用者に最適なサービスを提供するためには、刻々と変化している法制度を熟知した上で、上手に選択・利用していく必要があるということを改めて感じました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

(敬称略・順不同)

◆個人会員 平成29年度 平成29年4月1日～平成29年4月30日

福田 宣央	寒川 妙子	鈴木 幸市	松下 静江	松原 廣	松原 正子	金川 謙二	金川 恵子
金川 大介	鈴木 克幸	鈴木 裕子	鈴木幸太朗	鈴木裕太朗	堀 仁美	和田 則昭	和田真由美
土居 一郎	土居 良助	土居 晶子	宮崎 昭子	佐光 昭二	藤田 共子	山本 信二	河北 豊
山本 哲	美浦 称一	後藤見知子	渕崎 輝一	岡 康弘	村山 昌	三谷 善則	安藤 敏典
松川 愛子	伊豆野美代子	畠山 一夫	畠山 進	藤田 容三	藤田美代子	藤田 洋志	安原 真理
三好 悅子	北條美代子	真鍋 康徳	今瀧 知子	三好喜久子	遠藤 定則	安西 秀雄	岩部 雅人
鹿野 榮子	中野真貴子	藤田 和代	豊島 純子	中井 義昭	大門 亘	猪熊 恵子	河島 淳子
瀬谷 之人	桑田 まり	幸田加津子	大宅 秀美	樽谷 学	谷川 博彌	谷川 聰	田岡 晃平
田岡 博雄	松原 健太	安倍 晶子	遠藤 能成	谷本 賢	松尾 能之	福岡 茂雄	梶原由紀子
松原 條一	山本 勝博	山本 和市	藤岡 剛	大橋 光政	和泉久美子	中條満智子	石元 信子
宮崎 光	白川 勉	高嶋 誠三	高山 照子	山下真理子	深井 一恵	村上 明美	和田 龍兵
佐々木久一	関 貴史	松木知恵子	前田 浩子	安藤 利政	愛川 幸子	保本ふさ枝	松原 鑿
多田 修	村尾スミ子	馬渕 太助	高木 春美	加藤 恵子	石田 恵美	横井 和子	浅岡加寿子
内園 昭一	佐竹 勝利	松原 二朗	堤 康	黒嶋 正子	藤岡 幸弘	小山 裕介	三木 隆文
三木 スミ	青井 美彦	真鍋 幸恵	高浜美代子	近藤 文男	近藤 豊子	西山 香織	植原 静夫
武内 京子	山西 明	山西 大介	安部 友紀	西原 武夫	西原 恵子	山縣 千恵	元木 康之
竹野内政子	三好 勉	三好 智子	竹内 俊介	白井 麻美	横田敬一郎	水本 啓子	新名亜希子
細川 恵可	吉田 竜平	大熊 美佳	黒田 寛子	小山 敦弘	高嶋 和弘	高橋由佐子	大西 規子
宮宇地 峻	湯浅美智子	富田 ト工	重利 久代	細井 香	伊賀 宏文	小川 博子	塙本 洋子
田中 輝明	小西 朋子	坂本 厚子	猪塚 正章	増田 泰子	堤 健	大川 和	大町 幸子
宮崎 歩	中村美恵子	鎌田 泰明	真鍋 静子	児玉 慶子	兵頭 政菊	石井 博文	計野浩一郎
竹田 俊夫	小泉 芳博	河田 美紀	三谷志津夫	三谷 文	三谷 周子	三谷 ふき	(株)共同ガス
宮崎 成	朝日 光頤	朝日 友紀	西形 穂	片桐 泉	片桐 正晶	三好 紀子	鶴見 翼
石本 寛嗣	新名 義弘	新名 義隆	猪塚 和子	吉村繁三郎	土手添レイ子	石田測量登記事務所	

◆団体会員 平成29年度 平成29年4月1日～平成29年4月30日

(株)たまも	(株)トミタ	大成段ボール(株)	(株)一陽パック	(有)高松機械	(有)久間薬局	香川トヨペット(株)
(株)合田工務店	(株)ムーミー	(有)晴天	(株)ミネック	(有)雄興業	アイ・プロジェクト	(株)遠藤米穀店
百十四銀行空港口支店	(有)香南鉄筋	アカマツ(株)高松営業所	自由民主党香川県第一選挙区支部	(有)高島産業		

平成29年4月1日～平成29年4月30日現在、以上の方々にご継続及びご入会頂きました。平成29年5月1日以降にご入会の方のお名前は次回の会報に掲載させていただきます。本当にありがとうございました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にした理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき、「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようにお願い申し上げます。
年会費 個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円

ご入金方法 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

あたたかいご支援、本当にありがとうございました。



職員コーナー

ウインドヒルで支援員として働き始めて8ヵ月が経ちました。

障害者施設で働くのも初めてのことであり、どうすればいいのかもわからず焦りと不安がありながらも周りの職員に聞いたこと、アドバイスなどをもとに今の自分へと成長できました。未だにわからないことの方が多く周りの職員に助けられてばかりの毎日ですが、そのおかげで自分も日々成長していると実感しています。

利用者と接する中で私が感じたことは、言葉の大切さを一番に感じました。どういった言葉で伝えれば伝わるか、どういった言葉で話したら相手の気持ちに寄り添いながら接することができるか、普段の生活の中で自分が当たり前に使っている言葉を当たり前にしてはいけないと深く感じました。

私に心があるように利用者にも同じ心を持っています。その心に寄り添えるような職員を目指していきたいと思います。

生活支援員 田中 美穂

ウインドヒルに見学に来られました

ウインドヒル訪問

2月半ば、晴れた日の午後でした。ウインドヒルの見学は、期待していた以上に私の力となりました。私は、日中は働きに外に出て仕事をし、家に帰ると十分にリラックスができる。そのような、家庭的雰囲気を忘れない施設づくりを目指してきましたが、ウインドヒルにはそのような環境がきちんと整っていたのです。

それぞれ 夫々の個室は全てが南向きの明るい部屋となるように設計され、ハード的な配慮が見られました。生活の場から少し離れた作業所や屋外では、個々に合わせた活動や仕事のやり方が考案されており、一生懸命に働く方や楽しそうに活動されている方に出会うことができました。

おそらく、ここで働く支援員の皆さんは、ウインドヒルの職員であることに誇りをもっているのであろうということが犇々と感じられる時間でした。そして、ウインドヒルに集う方々が幸せそうであったように、私も、このような施設づくりを目指して、頑張ろうと言う気持ちを持つことができました。今回の見学がとても良い機会となったこと、利用者の皆様をはじめ、ウインドヒルの皆様に御礼申し上げます。

社会福祉法人 柏濤会 ばんそうS & S 施設長 海善 好史

苦情解決のお知らせ(平成29年2月1日～平成29年5月31日) 苦情受付件数 0件

苦情数ゼロを確認し、併せて、個々の利用者の特性に合わせた生活支援の状況を伺い、施設内部の視察もしました。適切な運営がなされていることを確認しました。

第三者委員 横田敬一郎・梶原由紀子

保護者会コーナー

【親として、支援員として】

3月、中部養護学校を卒業した息子は、高校を卒業して社会人へと成長していく同級生と同じように自宅から巣立ち、ウインドヒルの利用者として仲間入りしました。ずっと長いこの先…息子の居場所が出来た事に安心した私がいます。息子が中学部の頃、将来に向けて先回りしようと初めて福祉の職を探し始めた時に、ポム・ド・パンの理念が一際輝いて私の目に飛び込んできたのを今も覚えています。こんな風に成長できたらどんなに素敵な事だろうと。実際ウインドヒルの支援の場に身を置いてみると、息子と同じ障害なのに利用者1人1人の抱える問題や、特性が違うという事。それを理解し、その人に合った支援や関係を築くことの大切さ。そして何より、難しい現場でありながらそれを実践している職員の方々を目の当たりにし、保護者として今まで息子に正しく向き合えていたかった自分がとても残念であり、恥ずかしい思いでいっぱいでした。入所して1ヶ月が過ぎ、息子も今までウインドヒルの仲間との生活や作業を通して、学生時代とは全く違った毎日の貴重な体験の中で、沢山の事を学んでいる所だと思います。すこり落ち着いている先輩利用者の方々も息子にとってはとても頼もしい存在です。利用者となった息子と、その保護者となつて同じ1年生同士の私達親子。障害を持つ者の親であること：親として、支援員として、息子と一緒にこれから先、少しずつでも成長して行きたいです。息子に関わって下さっている方々へ、感謝の気持ちを持ちながら…

1つひとつの生命を育む あなたかなこの場所で。

石田 恵美

社会福祉法人ボム・ド・パンのホームページです。

当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので是非ご覧ください。

スマートホンでは右のQRコードから読み取れます。

アドレス：<http://www.pommedepin.or.jp/>



社会福祉法人ボム・ド・パン

編集後記

この編集後記のとなりのスペースでご紹介していましたメリーちゃんが、平成29年3月4日に永眠しました。

日課のウォーキング時間にはいつも利用者と一緒に歩いてくれたり、利用者、職員にとって癒し的な存在でした。

約3ヶ月の入院後、最後は施設でみんなで看取ってあげたいという想いに答えてくれ、1月4日に退院し、最後の時まで私たちに思い出を残してくれました。

メリー♀
2008年12月にウインドヒルに来ました。今まで本当にありがとうございました。



松ぼっくりの
ボムです。パンです。